

図や表が提示されたときには、それを拡大して提示できる画面を設定した。

エ ヘルプボタン

ヒントボックスを画面に表示するボタン。

問題に関するヒントをヒントボックスに用意しておけば、ヒントがあるときだけヒントボックスが開くようにした。

③ 単元別問題提示画面

領域毎に問題を提示する画面。

領域別に表示するので、学年間の関連をおさえて学習することができる。

また、どの学年の問題でつまずきが多いのかも把握することができる。

④ 誤答問題提示画面

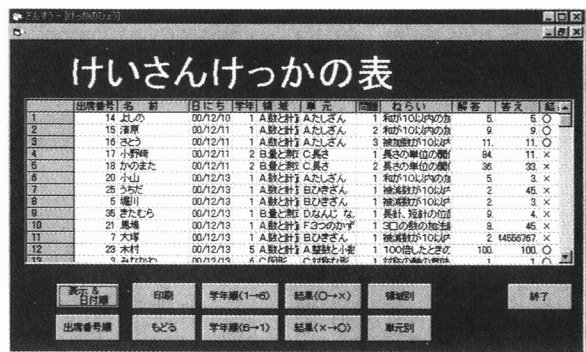
学年別や単元別で誤答した問題だけを表示させる画面。

この画面のなかで正解すれば、正解した問題は、つぎからは表示されなくなるようにした。

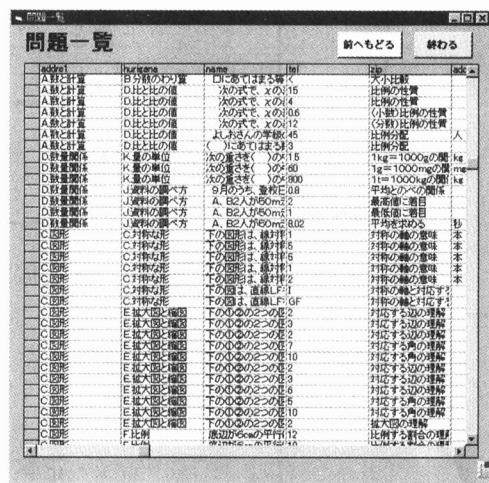
⑤ 計算結果表示画面

データを並べ替えるボタン。

日付順・出席番号順・正誤別・単元別・学年別の並べ替えを簡単に表示できるようにした。



⑥ データベースの変更・追加画面



パスワードを設けて、この問題一覧画面からも編集できるようにした。

IV 今後の方向性

- 1 本年度の研究では、Visual BasicとAccessのデータファイルに関連させ、教科ソフトウェアの開発に取り組んできた。そのことにより出題の数をデータベース化することができた。
- 2 CSV (Comma Separated Value) 形式としてデータを保存しているため、表計算・データベースアプリケーションソフトと関連を図ることができるようになった。
- 3 全学年のどの単元からも解答できた。手軽に使用できるソフトウェアに仕上がった。
- 4 今後は、これを実際に使用していきながら、有効な利用法を探っていきたい。